

地域の文化財を活用した 図工・美術の鑑賞教育

最終更新日：2015年8月28日

美術教育講座
准教授
松久 公嗣

キーワード ・文化財 ・伝統文化 ・宗像大社 ・日本画 ・鑑賞

研究シーズの説明 (私は、このような研究に取り組んでいます。)

地域に現存する文化財や芸術作品を活用した、小学校図画工作科や中学校・高等学校美術科における鑑賞教育について実践的な研究をおこなっています。

これまでに進めてきた内容は以下の通りです。

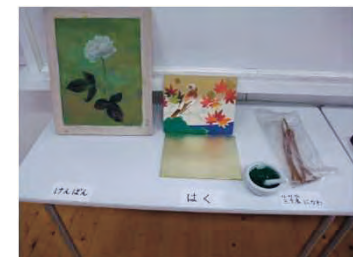
- 1: 宗像大社に現存する襖絵・腰障子絵(福永晴帆 筆)に関する作品の劣化状況の調査ならびに作家研究
 - (1): 腰障子絵の模写研究
 - (2): 襖絵の再現文化財(レプリカ)製作
 - (3): 模写作品やレプリカを用いた鑑賞教育の実践(展覧会・学校現場での授業実践)
 - (4): 研究の成果を展覧会において展示・発表



成果の応用可能性 (私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。)

これらの研究成果は、図工科や美術科の学習指導要領でも求められているように、我が国の美術に関する学習を身近な文化財や芸術作品を通して関心を持ち、その価値を自分なりの言葉で表すことのできる能力の育成へと応用することが見込まれます。

また、福岡県下どの地域においても、寺社仏閣に関連する文化財は存在しており、絵馬や扁額、襖絵や掛軸といった絵画作品を中心に、その保存修復や展示に関する相談や、学校教育における鑑賞教育の実践についても、地域性に合わせた授業内容を提供できるようになると考えます。



これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

鑑賞教育の実践

城山中学校 2009年
勝浦小学校 2009年
市丸小学校 2009年
日の里小学校 2009年
赤間小学校 2007年-2010年

文化財の調査研究

宗像大社襖絵損傷調査 2003.3
「伝統技術の伝承と産学連携を融合した教育者育成プログラムの構築」
2006年-2008年
「福永晴帆研究」 2011年-2013年

展覧会

福永晴帆日本画展 2014.6